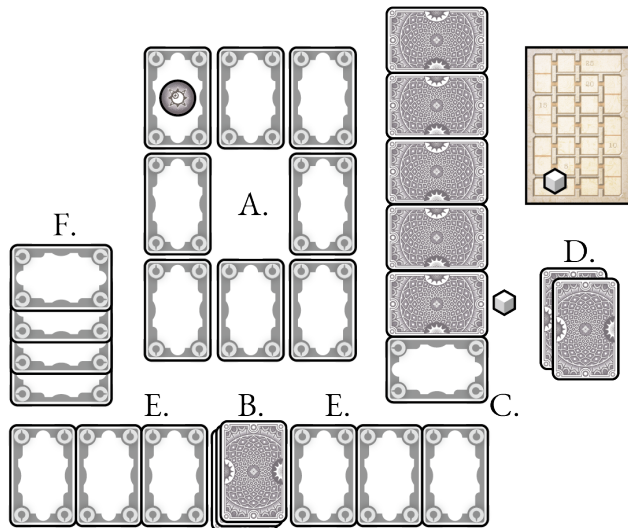


太陽の子供たち

Children of the Sun

1人用ゲーム



(△1人用ゲームでの配置)

A. 場 B. 山札 C. 幽霊の盾 D. 幽霊の胃袋 E. プレイヤーの手札 (左/右) F. プレイヤーのベッド

1人用ゲームでは、幽霊の脅威にあなた1人で立ち向かいます。

ルールは、基本的には2人用の規定を踏襲したうえで、以下の変更を加えます。

「ゲームの準備」の変更

先手として準備します。後手の手順はすべてスキップします。マーカーは白を使用し、黒のマーカーは箱にしまいます。

山札は、自分の手元の中央に置きます。

手札を受け取る代わりに、山札から1枚ずつ裏向きで引き、山札の左側に3枚、右側に3枚並べ、そのうちすべて表向きにします。

このようにして手元に並べたカードを【手札】とします。手札は、左と右の2グループに分かれています。

《手札の使用方法》

手札から1枚選んで場に配置します。手札の枚数が左右とも同じなら、自由に1枚選びます。手札の枚数が左右で異なるなら、より多い方から1枚選びます。

《手札の補充方法》

山札からカードを2枚引き、手札の左右両方に表向きで1枚ずつ補充します。1枚目は、カードを引いて、内容を確認してから、手札の左右どちらに補充するか決めます。2枚目は、1枚目の補充の後に引いて、1枚目を置かなかった方に補充します。

《包囲フェイズ》の変更

自分だけが手番を行います。

手番の開始時点で、手札が**左右とも残り2枚**になっていたら、〈手札の補充方法〉に則って山札から手札にカードを補充します。

そののち、〈手札の使用方法〉に則って手札から場に1枚配置します。

重要：前回の手番で場に置いたカードの、幽霊駒を挟んだ**反対側が空いていれば**、そこにカードを**置かなければいけません**。

重要：〈包囲フェイズ〉中も**回転量0のカードを場に出すことができます**。ただし、回転量0のカードと、それと同色のカードとで幽霊駒を挟むようにして配置したとしても、ここでは**何も起こりません**。

《解析フェイズ》の変更

自分だけが手番を行います。

手番の開始時点で、手札が**左右とも残り2枚**になっていたら、〈手札の補充方法〉に則って山札から手札にカードを補充します。

山札がなくなったら、手札の補充を行わずにゲームを続けます。山札があった場所を空けて、手札を左右に分けて下さい。

そののち、〈手札の使用方法〉に則って手札から場に1枚配置します。

解析の結果確認したカードも、獲得したカードも、表向きのままにしておきます。

また、手元には手札が置かれているので、獲得したカードは自分から向かって左手側(2人用ルールでは山札を置く場所)に置いて下さい。

《退治フェイズ》の変更

〈退治フェイズ〉の手札のすべてと、幽霊の盾のうちの解析が行われた分は、フェイズ開始時点で表向きになっています。公開された情報から十分に考えて編成を行ったら、一度これらもすべて裏向きにしてから攻撃を行います(得点計算を進めやすくするためです)。

「勝敗と評価」の変更

最終得点から、どの程度幽霊退治がうまくいったかの評価を得ます。評価の段階分けは、以下のとおりです。

20点以上 【浄化】 幽霊は天と地に霧散します。幽霊の胃袋に送られてしまった魂と、幽霊の盾にされていた魂が、あるべき場所へ還っていきます。

15点以上 【無力化】 幽霊を拘束することに成功します。幽霊の胃袋から魂が肉体へ還り、盾にされた魂も、専門機関に救済を委託できます。

10点以上 【逃亡】 幽霊は力を削がれて姿をくらししました。幽霊の胃袋の中身に後に残されます。盾にされた魂も、今後まだ奪還の機会があります。諦めてはいけません。

それ以下 「……という夢を見たのですが、先生……」

2人用ルール補足

このゲームでは、2人プレイにおいても、両者の最終得点の合計から、今回の幽霊退治の評価を得ることができます。両者の合計得点が高いほど、幽霊退治をよりよくこなしたことになります。

評価の段階分けは、1人用ルールのそれに準じます。両者の合計得点が**40点以上**で【浄化】、**35点以上**で【無力化】、**20点以上**で【逃亡】の評価となります。